

ローマ人への手紙 8 章 28-39 節

すべての神の約束はすべての神の子どものために

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

8:29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。

8:30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。

8:31 では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょ。

8:33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。

8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。

8:35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

8:36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。

8:37 しかし、私たちは、私たちを愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。**8:38** 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、

今あるものも、後に来るものも、力ある者も、**8:39** 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

はじめに

第二ペテロ **1:4** 「その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」

先週のメッセージの始めにも言いましたが、創世記から黙示録までの聖書の全ての約束は、神の子どもになった全て人のためにあるものです。その約束は永遠に変わる事のない神様の言葉ですから、全部、尊い、素晴らしい約束です。

第二コリント **1:20** 「神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言い、神に栄光を帰するのです。」

今日の聖書箇所の中から、3つの、特別に尊く素晴らしい約束を選んで話したいと思います。本当の信仰は、皆さんと私の救われたその信仰は、神様の存在を信じているだけではなく、神様の約束を信じている信仰です。そしてそれだけではなく、神様の約束を暗記し、自分に言い聞かせることによって信仰の戦いの中でも信仰の大盾として「悪魔の火矢」という嘘を消す事が大切です。キリストの勝利を自分の体験で証明する為に必要なのです。イエス様自身もそれと同じ戦い方をされましたから、私達には尚更必要です。

なぜ、今日の3つの約束は特別に尊い、素晴らしいものかと言いますと、これらにはイエス様を信じて受け入れること以外には他の条件が何も付いていないからです。ほとんどの聖書の約束は条件を満たす信者だけが実際に体験しますが、今日の約束は、全ての信者が必ず実体験で証明するもので、それはただ時間の問題です。他の条件を満たす必要はありません。ですから、全ての信者が絶対に暗記して忘れないようにするのが大切です。

1. 全ての事が益になる (28 節)

8:28 「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

はじめにも言いましたが、聖書に「全て」という言葉が書いてある時、それは全く例外なく全てという意味です。全ての約束と全ての信者、そして全ての事が益になると言う意味です。と言っても、ここに条件があると言いたい人もいるかも知れません。「『神を愛する人』と書いてあるから、それが条件なのではないのだろうか？自分はクリスチャンになったけど本当に神様を愛しているのかな？」とと思っている人もいます。もしくは、「自分の神様に対する愛は十分だろうか？」「信者の中で神様に対する愛の程度はバラバラだから、この約束が真実であるかをどの程度体験するかはその人の愛によって違うのでは」と解釈する人もいます。ですが、そのような考え方は人間の愛を基準にして考えていますから、聖書と関係ありません。28 節の中で「神様を愛する人」はどういう意味で使われているかを説明してくれています。「すなわち、ご計画に従って召されている人々」とあります。神様の救いの計画に従って召されている人とは、イエス様の全ての信者と言う意味しかありません。ですから、これは全ての信者の為に全ての事が益になると言う約束です。これは、何とも言えない尊い、素晴らしい約束です。しかも、自分のいいと思う事だけではなくて、自分にとって最悪と思う事も含まれています。自分の失敗や罪も含めて何も自分に対する神様の計画を駄目にする事が出来ないのです。神様はどんな悪からでも、素晴らしい事と祝福を作る事ができます。今人生で最悪の状態の中にいる人のことを考えてみてください。神様はそのままで終わらせません。キリストの十字架とこの約束はその保証です。

人類の歴史の中で最大の悪を通して、神様は人類の救いと祝福を作りました。私は確信を持ってどの人に対しても言えます。あなたの人生の最悪の状態から、神様は素晴らしい事と祝福を作る事が出来ます。

私の人生も、18 歳で既に終わっていると誰から言われてもおかしくない人生でしたが、神様はその酷い経験を、私自身のためにも、数えきれない人々の為にも祝福に変えて下さいました。「あなたの神はあなたを愛しているから、呪いを祝福に変えて下さった。」と聖書に書いてある通りです。まだはっきりイエス様を受け入れていない人がいるなら、これを聞いて是非、今すぐに受け入れれば、この素晴らしい約束はあなたのものになります。

ここで終わっても十分だと思いますが、まだまだ尊い、素晴らしい約束があります。

2. 神はいつも私達の味方(31 節)

8:31 「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

英語で rhetorical question と言う言葉があります。それは答えが既に明白なので、答えなくてもいい質問です。この31節の質問はそう言う質問です。言い換えれば当然、神様は私達の味方だから、誰も私達に敵対出来るものはありません、ということです。ここで誤解しないように気を付けなければならぬことがあります。誰も敵対しようとしな、と言う意味ではありません。山ほど敵対しようとするものがあるかも知れませんが、私達には最強の味方がいますから、敵対しようとするものは絶対に負けます。そのような時に覚えておかなければならないのは、人間が敵なのではなくて、相手は気がついていなくても、目に見えない悪の力が私達に敵対しようとしているだけなのです。その力も含めて最終的には私達に敵対出来ません。

神様は私達の天のお父さんとして、いつも味方として私達の為に働いて下さっています。その次の32節から、使徒パウロはそれを強調しています。だれも私達を訴える事も出来ないし、罪に定める事も出来ないと書いてあります。もちろん、罪の中でほったらかしにされる事も出来ませんから、自分から悔い改めようとしな場合、厳しい愛の訓練もあります。それは罰ではなく、悔い改めるように導く愛と哀れみです。神様はどんな時でも味方であると信じることをしなければ、私たちは悪魔の得意技によって訴えられればなしになり、恐れによって支配されてしまいます。この箇所です。これが分かりにくければ、もう一箇所、同じ約束が書いてある箇所があります。

ヘブル13:5 「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」
13:6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう。」

これはローマ人8:31と全く同じ約束を違う言葉で表現しているだけです。どんな時でも、何があっても、私は絶対にあなたを離れないし、捨てない、と言う約束です。「罪を犯さない限りあなたを離れない、捨てない」とは書いていませんし、「毎日聖書を読んで祈ったら、あなたを離れない、捨てない」でもありません。全く無条件的な約束です。ですから、6節には「そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう。」と、何の為にこの約束があるかが書いてあります。どんな時でも、私達は確信に満ちて「主は私の助けで私は恐れません。」と言うのです。神はあなたのそばにいてだけではなくて、あなたの味方なので、意味が全然違ってきます。どんな時でも、何があっても、神様は助ける為に、味方として共にいて下さいます。この真実を固く信じていなければ、失敗する度に恐れに振り回されて神様の平安が心を支配出来ないし、心と思いを守って下さる事を体験できません。この2つの聖書箇所には強い確信に満ちた言葉と表現が使われています。まさに確信に満ち溢れています。ローマ人の手紙8章に戻ってそれをさらに確認しましよう。

3. 永遠に変わらない愛の確信 (V38-39 節)

8:38 「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、

8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私達を引き離すことはできません。」

ここで使徒パウロは、言葉を尽くしても十分に強調する事が出来ないぐらいの確信をしています。死でも、どんな霊的な存在でも、今の世のものも、後からの世のものも、何ものでも、神様の私達に対する愛を変える事が出来ないのです。ですから私達は、頑張る事によって自分の理想的なクリ

スチャンの生き方が達成出来たととしても、神様がもっと愛して下さる事はありません。その反面、いくら失敗して罪を犯しても、神様の愛が減る事はありません。今すでに完全な愛で私達を愛して下さっていますから、それが分かれば、すべての恐れから解放されます。

第一ヨハネ 4:18 「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。」

それでは、そこまで言うのなら、罪を犯してもそんなに深刻な問題ではない、と受け止めてもいいのでしょうか？決してそう言う意味ではありません。罪の恐ろしさを知る必要もあります。人間は罪を軽くみてしまうと自分の好きな程度で罪を楽しみ、またいつでも捨てる事が出来ると間違った考えを持ってしまいます。そのような考え方をしている人は罪の本質を全く分かっていません。日本のことわざでも、「嘘つきは泥棒の始まり。」とあります。イエス様はもっと強い言葉で言いました。「罪を犯す者は罪の奴隷です」。罪の背後には必ず悪魔が働いています。人間は自分の力だけで絶対に罪に打ち勝つ事はできません。悪魔の名前の一つに、イエス様によって名付けられたものがあります。それは「偽りの父」という名前です。嘘を発明する最高の嘘つきです。まず悪魔が何かの罪を犯さそうとする時、それが1回だけで終われば、そんなに大して悪くはありません。2度としないならば大丈夫です。ですが悪魔がよく分かっているのは、1回してしまったら、絶対に1回だけで終わらないし、そのうちに更なる罪を犯すのは時間の問題だけだということです。神様は約束通りに私達を捨てませんが、罪によってだまされて自分の心を頑なにし、自分の方から神様から離れてしまう可能性がある、と聖書の中で警告されています。

ヘブル3:12 「兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。

3:13 「きょう。」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。」

これが罪の本質です。悪魔はそれを使いますから、気が付かないうちに自分で自分の心を頑なににしてしまうと、そのうち自分から生ける神様から離れてしまう可能性があるのです。

ですが、この警告もここまでにしましょう。皆さんが神様の尊く素晴らしい約束をしっかりと信じて、暗記し、それが全ての悪魔の嘘の火矢を消す為に大盾として使われ、安定した平安の満ちた生き方が出来るように、というのが今日の話の一番の目的ですから。

結論：すべての中の勝利（37節）

8:37 「しかし、私たちは、私達を愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」

艱難でも、苦しみでも、迫害でも、飢えでも、裸でも、危険でも、剣でも、何ものが目の前にあっても、と言う意味です。一時的に辛い事があっても、神様の素晴らしい約束により神様はそのまま終わらされないし、最終的に損することも、負ける事も、後悔する事もない圧倒的な勝利が約束されています。これもとても強い表現で、「何とか勝利する」のではなく、「圧倒的な勝利者」ですから、最終的には敵に余裕をもって勝利するのです。